

十日町地域 稲作生育速報（令和7年7月17日）

十日町農業普及指導センター・十日町地域農業振興協議会魚沼米振興部会

- 全般的に葉色がさめてきています。
- 1回目穂肥は、生育やほ場条件を考慮して「適期適量」を施用しましょう。
- 2回目穂肥は、後期栄養確保のため確実に施用しましょう。
- 出穂前に葉色がさめてきた場合は、葉色診断の上、3回目穂肥を施用しましょう。

【水稻の生育状況】 コシヒカリの生育データ（7月17日現在）※（ ）内は指標値比・差

調査地点	育苗様式	田植月/日	草丈cm	茎数本/m ²	葉数葉	葉色 (SPAD)	幼穂形成期月/日
十日町（小黒沢） 標高 150m	稚苗	5/15	75 (101%)	359 (85%)	12.3 (+0.6)	30.7 (-3.9)	7/10
川西（上野） 標高 170m	稚苗	5/19	75 (101%)	485 (114%)	12.0 (+0.3)	30.9 (-3.7)	7/12
松之山（兎口） 標高 430m	中苗	5/23	80 (122%)	414 (109%)	11.8 (+0.7)	34.2 (-3.4)	-
津南（米原） 標高 450m	中苗	5/31	76 (108%)	443 (91%)	12.0 (+0.2)	38.1 (+2.2)	-

【気象予報】 北陸地方 1か月予報（新潟地方気象台 7月17日発表、7月19日～8月18日）

気温	降水量	日照時間
高い	平年並か少ない	多い

【今後の管理】

1 穂肥の適期適量施用

（1）1回目穂肥

- 出穂期 18 日前頃（幼穂長 0.5～1.0cm）の草丈と葉色から施用時期と穂肥量を判断しましょう（図1）。
- 施用できるめやす：草丈 80cm 以下、葉色（SPAD 値） 33 以下



図1 草丈と葉色による穂肥施用のめやす

（2）2回目穂肥

- 後期栄養確保のため、出穂期 10 日前をめやすに確実に施用しましょう。
- 1回目を施用しても葉色が淡い場合は、窒素成分 2 kg/10 a を上限として増施しましょう。

（3）3回目穂肥

- 2回目を施用しても葉色が淡い場合は、さらに窒素成分で 1 kg/10a を追肥しましょう。
- 施用のめやす：化学肥料体系では、出穂期 3 日前の SPAD 値が 31 以下
有機質入肥料体系では、出穂期 6 日前の SPAD 値が 33 以下

(4) 全量基肥肥料の追肥

- 全量基肥肥料（基肥一発肥料）も出穂期 10 日前の葉色が淡い場合は、追肥しましょう。

表 コシヒカリの出穂期予想と穂肥施用時期のめやす（7月17日現在）

標高（移植時期）	出穂期 予想	穂肥施用時期（出穂前日数）	
		1 回目 （－18～15 日）	2 回目 （－10 日）
100～200m（5 月下旬）	8 月 3 日	7 月 16 日～19 日	7 月 24 日
400～500m（5 月下旬）	8 月 8 日	7 月 21 日～24 日	7 月 29 日

※有機質入肥料の場合、有機質の割合が多い（5割以上）と肥効が遅く出るため、2～3日早めに施用しましょう。

2 水管理

- 幼穂形成期頃から出穂期後 25 日間（高温の場合は 30 日間）は、飽水管理（土壌が湿った状態）を継続し、根の活力を維持しましょう。なお、常時湛水は、根を傷め、倒伏にもつながるため避けましょう。
- 異常高温やフェーン時には速やかにかん水し、乾燥による障害を防ぎましょう。

3 病害虫対策

(1) 斑点米カメムシ類

- 畦畔で斑点米カメムシ類が多く確認されています。
イネ科雑草が繁茂している所は、稲が出穂する前に草刈りを実施し、斑点米カメムシ類のすみかをなくしましょう。
- ほ場内のヒエやホタルイは、斑点米カメムシ類を誘引します。ほ場内の除草も徹底しましょう。
- 薬剤防除は、出穂期を把握して確実に実施しましょう。

(2) いもち病

- 十日町地域内で、葉いもちの発生が確認されています。
- いもち病に弱い品種や例年葉いもちが発生する場所は、小まめにほ場を確認し、早期発見、早期防除に努めましょう。



図2 いもち病に感染した葉
（葉いもち）

※穂肥施用や病害虫防除等の詳細は「稲作情報」を御覧ください。



限りある農業用水を大切に使用しましょう。

こまめな休憩と水分補給で、熱中症を予防しましょう。
安全確認と予防対策で、農作業事故を防ぎましょう。

十日町農業普及指導センター（作物担当）

TEL 025-757-5516・6061

HP http://www.pref.niigata.lg.jp/tokamachi_nogyo/suito.html



←LINE 水稻情報はここから